

総務常任委員会

視察研修報告

(期間) 10月22日～23日
(目的及び視察地)

●集中豪雨時の対応・災害発生時の対策等について

(広島県広島市)

平成26年8月19日から20日にかけて広島市では未曾有の集中豪雨とその後の土石流の発生等で大変な被害が出た。地域防災計画通りに避難対策等は適切に行われていたのか、避難勧告の発令時期は計画に沿ったものであったのか、また今後、今回と同様な急激な気象の変化、深夜の災害発生に対応するためには、どのような避難対策を行うべきか等についてくわしく検証されていた。今後の対策に十分に生かされることを望むものではあ

るが、自然災害はいつ、どこで発生するか判らない場合が多い。小城市においても天山から有明海まで豊かな自然に恵まれているが災害も多い。未然に防ぐ為の対応、災害が起こる前のすばやい行動、減災のための行動、発生した後の対応等について常日頃の確認で対策を立てることが重要であると感じた。



文教厚生常任委員会

視察研修報告

(期間) 10月27日～28日
(目的及び視察地)

●介護保険いきいきポイント制度

(岡山県倉敷市)

倉敷市は48万人の人口で、毎年増加している。この制度は、現在2期目の女性市長が市単独で行っている介護保険事業の一環として取り組んでいる。平成23年度より始め、ボランティアをやるごとに加算され上限は5千ポイント。1回で1ポイントで1円。上限で5千円に換金でき、交通費見合

い分と位置づけられている。平成26年度は603人の登録で、千人が目標。介護施設等で話し相手や清掃やイベントの手伝いのボランティア。課題は、各集落等の活動範囲の拡大と感



産業建設常任委員会

視察研修報告

(期間) 11月5日～6日
(目的及び視察地)

●「フードバレー八代」の取り組みについて

(熊本県八代市)

八代市において、農林水産業及び食品関連企業の調査、開発、製造並びに物流、販売等の全ステージを支援できる体制づくりを行い、世界に通じる「八代ブランド」の創出に向けて地域が取り組むべき方向性を示した「八代フードバレー基本戦略構想」について

市の方針と保護者の支援で、施設は決して新しくはないが、子どもを見守る熱意に感動した。

学んだ。「食」に関するあらゆる産業の活性化を目指すものであり、4つの大きな基本戦略が掲げられている。

1. 地域のブランドづくり
2. 八代の個性と魅力を発揮できる力の拠点づくり
3. 流通を拡大する



販路づくり

4. フードバレー八代を
実践する体制づくり

以上のことを基本として、市役所にも担当課を設置し、総合窓口機能を担いコーディネーターの役割を果たし、情報共有、意識共有と実働体制の連携が図られる体制づくりができており、企業、行政における連携の取り方等について参考とするところが多くあった。

議会運営委員会 視察研修報告

(期間) 11月11日～13日

(目的及び視察地)

●議会改革及び政治論理
条例について

(京都府亀岡市)

(京都府京田辺市)

亀岡市議会は全国でも議会公開度、住民参加度、運営改善度の議会改革度は13位と素晴らしい改革をされている。

近年では事務事業評価の実施、会議へのパソコン等持込許可、文書質問、政策研究会制度、フェイブックの活用、子ども議会の開催など改革され、市民とともに歩む改革へ常に挑戦し進化されていた。

京田辺市議会は、議会改革条例を平成26年9月に制定している。特徴として議員は議会が言論の場であることを認識し、自由な討議を尊重されている。議会広報の充実では、特に議会の傍聴者へ



の資料の提供（決算の資料等）で傍聴意欲を高められている。
議員と市長との関係では、市長に発言の趣旨について確認のための反問する機会を与えている。
この研修を終えて議会改革の内容についても、議会報告会等の住民参加度や公開度を上げる必要を感じた。

広報編集特別委員会 視察研修報告

(期間) 11月9日～10日

(目的及び視察地)

●議会広報について

(鹿児島県霧島市)

(鹿児島県いちき串木野市)

霧島市は「議会だより編集特別委員会」より格上げされた「広報広聴常任委員会」になっており、委員の構成は、総務文教、環境福祉、産業建設に、議会運営委員会を加え、各2名の計8名で運営されていた。

オールカラー刷りで、レイアウトも工夫されて、わかりやすい紙面づくりがなされ、一般質問のところでは、質問議員の顔写真の下にQRコードがついており、動画で視聴できる仕組みになっていた。表紙にはフォトコンテスト入選作品の写真を採用、市民参加型という姿勢がみえる編集であった。

また、毎号、時宜にか

なった特集記事が組まれ、常任委員会報告も「委員会レポート」というページ設定で読み手の興味を引く編集になっていた。中でも委員会活動の中において、当市も参考にしなければと感じたことは、「議会報告会」を、さまざまの団体・グループ・個人から意見を聴くかたちでの「公聴」というスタンスにシフトし、「市民に開かれた議会」をめざし「議員と語るかい」へ変え、取り組まれていたことだった。

開催場所についても、市内をくまなく巡回するよう毎回、開催場所の検討もされ、定例会ごと8か所で行っているとの報告だった。

2日目のいちき串木野市は霧島市と同じく、年5回の発行で、1月の新年号をして、議長と市議会

議員のあいさつを載せ、4ページ組の別冊の議会報を出されていた。霧島市とはやや違うが、今までの「報告会」から、「市民と語る会」に衣替えをして、6日間16か所の会場で行った取り組みは、市民への開かれた議会を目指そうという意気込みを、また、将来を担う市内の子どもたちを表紙に毎号取り上げるなど「子どもへのまなざしの熱さ」といったものも感じた。

また、毎号、時宜にか

